

山岳遭難発生状況

(令和8年1月1日～令和8年4月19日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和8年	52	10	1	11	39	61
令和7年	49	12	1	19	28	60
前年同期比	3	-2	0	-8	11	1

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	21	40.4%	6	1	5	14
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計	21	40.4%	6	1	5	14	26
中央アルプス	6	11.5%	0	0	0	7	7
南アルプス	0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰	11	21.2%	3	0	3	7	13
その他の山岳	14	26.9%	1	0	3	11	15
計	52		10	1	11	39	61

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	10	19.2%	2	0	7	1	10
転倒	2	3.8%	0	0	2	0	2
病気	6	11.5%	3	0	0	3	6
道迷い	11	21.2%	0	0	0	15	15
落石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪崩	3	5.8%	1	1	1	0	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	5	9.6%	1	0	0	4	5
不明・他	15	28.8%	3	0	1	16	20
計	52		10	1	11	39	61

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					(人)比率	女性					(人)比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	5	5	23	0	0	0	2	2	8	7	31
20代	1	0	2	11	14		0	0	0	4	4		18	
30代	1	0	0	3	4	52.3%	0	1	0	1	2	47.1%	6	50.8%
40代	4	0	2	1	7	15	0	0	0	0	0	5	7	20
50代	2	0	1	5	8	34.1%	0	0	2	3	5	29.4%	13	32.8%
60代	1	0	2	3	6	6	1	0	2	0	3	4	9	10
70以上	0	0	0	0	0	13.6%	0	0	0	1	1	23.5%	1	16.4%
計	9	0	7	28	44		1	1	4	11	17		61	
比率	72.1%						27.9%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生 (4/13~4/19)

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
4月17日	北アルプス 白馬岳	男	40	死亡	不明	単独で白馬岳に入山し、何らかの原因により、行動不能 (4月11日に単独で入山し、行方不明になっていたもの)
4月18日	北アルプス 白馬岳	女	54	負傷	滑落	2人パーティで白馬岳主稜を登山中、滑落し、負傷
4月18日	北アルプス 白馬岳	男	59	無事救出	その他	2人パーティで白馬岳主稜を登山中、上記同行者が遭難したため、技量不足により、行動不能
4月18日	雁田山	女	50	無事救出	発病	2人パーティで雁田山を下山中、発病により、行動不能
4月19日	将基頭山	男	55	無事救出	滑落	単独で木曾駒ヶ岳から下山中、将基頭山山頂付近で滑落し、技量不足により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、1件の死亡遭難を含む、5件の山岳遭難が発生しました。うち2件は滑落による遭難です。

雪山ではアイゼンやピッケルを使った確実な歩行技術が不可欠です。これらの技術が不十分なまま入山すると、転倒や滑落といった重大な遭難につながるおそれがあります。原因としては、アイゼンの引っかけやバランスを崩すことが多く見られます。

アイゼンを着けている時は、両足の間隔を広めに保ち、爪を引っかけないよう足をやや高く上げて歩くことを意識してください。また、バランスを崩した場合は、すぐにピッケルを雪面に突き刺して体を止めることが重要です。万が一に備え、事前の練習と心構えを十分に行いましょう。

さらに、単独での登山は、転倒や滑落による負傷時に、救助要請や発見が遅れるおそれがあり、リスクが高まります。行動予定を必ず家族や友人に伝えるなど、万が一に対する備えを徹底してください。